

金沢市立泉小学校
平成30年度 学力向上の取組（1学期）

1 研究主題

ともに学び 高め合う子 ～子供たちが主体的・協働的に探究する授業づくり～

2 現状・課題（3学期の検証結果、学力分析シート、学校評価等から）

（1）児童生徒の現状・課題

- ・授業ではペア・グループ活動の充実を図ってきたことで、冬の児童アンケート「挙手したり、ペアやグループで話し合ったりして自分の考えを伝えているか」の肯定的な割合は夏の児童アンケートより1.8ポイント上昇し、89.4%の児童が自分の考えを伝えることができるようになってきた。しかし、根拠をあわせて伝えることは79.9%と十分とは言えない。
- ・過去3年間の全国学力調査では、全国平均を2～10ポイント上回っているが、算数Aでは県の平均を2年続けて下回っており、知識・理解に課題が見られた。県基礎学力調査の6年理科では過去2年間県平均を下回っている。家庭学習として理科・社会科のプリントに取り組んできた結果、5年12月評価問題では理科は県平均を3.6ポイント上回り、改善が見られた。
- ・2月評価問題の結果から、国語科、理科は県平均を上回ったが、算数科では県平均を1.2ポイント下回った。依然として課題が見られた。

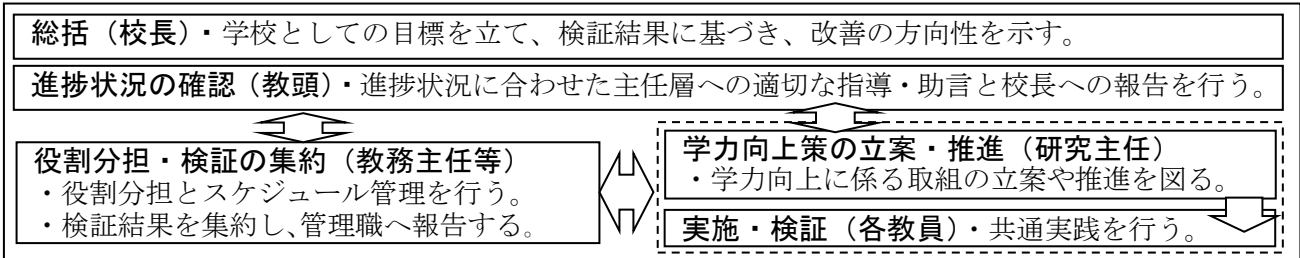
（2）指導の現状・課題

- ・授業で行う取組のペア・グループ活動は学年会で実施状況の確認を行って取組意識の向上を図ってきたことで全員が授業の中にペア・グループ活動を取り入れることができた。授業以外で行う取組の週末の学習プリントと朝学習の条件付き作文は全教員が取り組むことができた。次年度はさらにペア・グループ活動が効果的になるよう、目的を伝えた上でペア・グループ活動ができるようにしたい。

3 重点的に行う取組と検証

		授業で行う取組		授業以外で行う取組	
		取組①	取組②	取組①	取組②
取組	重点的に行う	「自分の考えを伝え合います」では、目的を明確にした上でペア・グループ活動をさせる。	「自分の考えを伝え合います」では、考えと根拠を合わせて伝え合うよう指導する。	金曜日の朝学習で、目的に合った文や条件付き作文（ミニ作文や記述式の問題）に取り組ませる。	毎週金曜日の家庭学習では、主に社会・理科の学習プリントに取り組みせ、基本的な知識・技能の定着を計る。
	検証の方法と指標	方法 指導の状況を学年会で協議し、実施状況を報告する。 指標 肯定的な回答の割合85%以上	方法 指導の状況を学年会で協議し、実施状況を報告する。 指標 肯定的な回答の割合85%以上	方法 作文の内容や条件を週案に明記するとともに、月末の学年会で実施状況を報告する。 指標 月2回以上	方法 取り組ませた学習プリントを学年ファイルに綴り、月末の学年会で実施状況を報告する。 指標 週1回以上
		方法 児童アンケートで確認する。 指標 肯定的な割合85%以上	方法 児童アンケートで確認する。 指標 肯定的な割合85%以上	方法 ミニ作文・記述式の問題で確認し、きめ細かな評価を行う。 指標 目的や条件に合う文を書く70%以上	方法 学期末テストで確認する。 指標 単元末テスト（社会・理科）の平均85点以上

4 年間計画



月	PDCA	授業で行う取組	研究授業	授業以外で行う取組
4・5月	計画 実践	研究主任 が学力向上策を立案し、全教職員と共有する。 全教員 が目的を伝えた上で、ペア・グループ活動を行うとともに、まとめ、振り返りの時間を確保する。	浅香教諭 鳥田教諭 寺村教諭	研究主任 が学力向上策を立案し、全教職員と共有する。 全教員 が朝学習で条件付き作文、家庭学習として社会科・理科の学習プリントに取り組みさせる。
6月	検証 改善 実践	学年主任と教務主任 が取組の状況を集約し、学年間差、教員間差を確認する。 研究主任 が指導の状況を確認し、 教頭 の助言のもと、改善策を提案する。 全教員 が改善策を共通実践する。	佐藤教諭 竹本教諭 天池教諭 稲井教諭 高橋教諭	学年主任 が条件付き作文、学習プリントの実施状況を学年会で確認し、ファイルに記録する。 学年会 で児童の状況、取り組み状況について把握する。 全教員 が金曜日の朝学習で目的や条件に合う文を書くこと（ミニ作文）と学習プリントに取り組みさせる。（必要に応じて書き直しをさせたり、読み合ったりする。）
7月	検証	教務主任 が取組の状況及び児童の状況についての達成状況をまとめる。 校長・教頭・教務主任・研究主任 が1学期の成果と課題を明らかにする。	松本教諭 加藤教諭 山形教諭 荒木教諭 宮野教諭	全教員 が金曜日の朝学習で目的や条件に合う文を書くこと（ミニ作文）と学習プリントに取り組みさせる。（必要に応じて書き直しをさせたり、読み合ったりする。） 学年会 で児童の状況、取り組み状況について把握する。 校長・教頭・教務主任・研究主任 が1学期の成果と課題を明らかにする。

8月以降は、「学力向上の取組（2学期）」「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践

7、8月	全国学調、県基礎学の結果及び1学期の取り組みの成果と課題に基づき、「学力分析シート」を作成する。分析結果から「学力向上の取組（2学期）」を作成する。
9、10、11月	「学力向上の取組（2学期）」に基づき実践・検証・改善を行う。（～12月）
12月	12月評価問題を「学力向上の取組（2学期）」の検証の機会とする。 12月評価問題を採点し、成果と課題を明確にする。
1、2月	12月評価問題の結果に基づき、「学力分析シート」を作成する。 分析結果から「学力向上の取組（3学期）」を作成する。 「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践・検証・改善を行う。
3月	学年末テスト等を「学力向上の取組（3学期）」の検証の機会とする。